

月刊

地域保健

8
2007

●
特集

ちょっとおかしい?
子どもたちの体データ最前線
疑問に答える

JURI
AUGUST 2007

● FACE 2007
村嶋幸代さん

東京大学大学院医学系研究科教授



村嶋幸代さん

東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学教授



photo : Sei Kamiyama

保健師には、地域社会の歪みを発見・構造化して、

その原因に働きかける能力が求められます。

昨年開設して話題となつた東京大学大学院修士課程の「保健師コース」。開設に奔走した同大学大学院教授の村嶋幸代さんは、「看護基礎教育の充実に関する検討会」の保健師ワーキンググループリーダーも務めました。「保健師コース」の狙い、1年目の手ごたえ、これから保健師に求められる資質などについて、村嶋さんにお聞きしました。

住民の健康状態と生活背景の関連を探究する「実習」

—修士課程「保健師コース」の1年目を終えた感想は？

村嶋 「保健師コース」は、看護職として相手に添う能力とともに、そこで抱んだ問題について、地域の人々や機関に当たつて、課題を明確にし、資料化して人に分かって貢うというトレーニングを通じて、分析能力と表現力をつけるのが狙いです。本来、保健師の

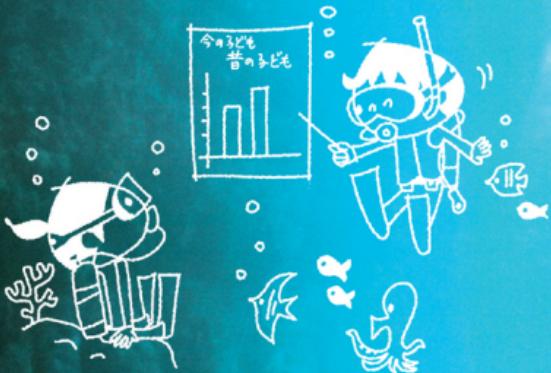
仕事には、目の前の現象を見通す眼や現象を分析する能力が求められるのですが、このところ看護系大学が増え、学生全員が卒業要件として保健師免許を取得するようになって、その力が落ちてきている現状があり、それをなんとかしようと思ったのです。

村嶋 初年度に入学したのは2人でした。この3月に特論と実習を終え、これから修士論文を書く段階ですが、期待通りの手ごたえを感じています。

特論はかなり広い範囲にわたつて学びます。また、分析能力を磨くために学内で社会調査実習と疫学・統計情報処理実習を行い、それから実習に出ます。実習の一つである地域診断・活動展開実習を例に挙げると、学生Sは郷里で実習前地区調査を実施し、社会資源などについてのマップをつくり、3つの課題を抽出しました。実習ではそのうちの1つ、「介護予防の会が継続している町内と中止した町内がある」という課題に焦点を絞り、継続している2つの町内（A町内、B町内）と中止した1つの町内（C町内）について、介護保険の申請状況を分析したり、訪問して生活時間を聞くなどによつて比較検討したところ、C町内は他と比べ



むらしま・さちよ
1975年東大医学部保健学科卒業（保健婦・看護婦免許取得）、77年東大大学院医学系研究科保健学修士課程修了、85年保健学博士。神奈川県立衛生短大、聖路加看護大学を経て、2001年東大大学院医学系研究科教授（健康科学・看護学専攻 地域看護学分野）。03年專攻長、本年5月から東大男女共同参画室室長、現在に至る。全国保健師教育機関協議会会長。ストレス解消は、おいしいものを作つて食べること。



p.8 現場レポート！子どもの心と体のよりよい成長のために
下出ふじ子園長ほか（おひさま環境保護園）

p.18 子どもの視機能の発達
上野純子（日本体育大学）

p.26 子どものからだの不調と自律神経系の発達不全
藤巣秀樹（宇都工業高等専門学校）

p.32 今 子どもの脳に大切なこと
寺沢宏次（信州大学教育学部 医学部大学院）

p.42 子どもをいきいきさせる“ちょっとした工夫”
鈴木綾子（私立小学校）

p.50 乳幼児健診での子どもの体のチェックの仕方
藤森 弘（藤森医院、保健・養生学研究所）

p.58 ☆Interview☆ 徹底解剖！
子どもの体を見てみよう 現状と解決方法
野井真吾先生（埼玉県立大学）

ちょっとおかしい？

疑問に答える

子どもの体

データ最前線

今、「子どもたちの体がどこかおかしい」といわれています。でもこれは今に始まったことではありません。今の子どもたちのパパママ世代、そのまた上の世代にもあった症状です。でも昨今は、それが顕著な数値として現われています。子どもの体の最新データから、今の子どもたちが置かれている状況を見てみましょう。そして子どもに接する者として、何をしてあげられるのか、考えてみましょう。

特集



子どもの心と体の よりよい 成長のために

現場レポート！

「子どもの体がおかしい」という言葉が聞かれるようになつて、何年ぐらいたつのでしょうか。子どもたちの体の状態が年々悪い状態になつているというのが、毎日接している保育士たちの共

通の認識となつているようです。

どのように子どもたちの体がおかしいのか、実際の状況やその状況をいかに改善しているのか、現場を見るために群馬県おひさま飯塚保育園でお話を伺つきました。

おひさま飯塚保育園は、北高崎駅から徒歩5分の距離にあります。保育園を何つてきました。

○ 健康な体の子がいるない！

昭和48年からずっと子どもたちを見ている保育士さんたちは、子どもの体、



おひさま飯塚保育園

下出ふじ子園長（写真中）
大野ゆう子先生（写真左）
渡辺 照子先生（写真右）
主任
保育士

（取材・文・写真 編集部）

特に足腰が弱くなつていると感じているといいます。子どもたちの9割が、入園していく子どもの9割が、体のどこかにゆがみがあつたり、筋肉の緊張があつたり、バランスが悪かつたりすると言います。また、0歳から入園してきた子どもには、「健康な状態の体の子がない」と保育士さんは言います。たとえば、体が弱かつたり、上手に母乳が飲めなかつたり。また手が前に出なかつたり、脚の形がX脚やO脚だつたり、体がぐにゃぐにゃだつたり、反対に体が硬かつたりという状態があるそうです。さらに、成長過程を順番にクリアせず、ステップを飛ばして成長していく子どもたちも多いとのことです。

でもこれは、今に始まつたことはなく、保育園が開園した当初から見られた症状だといいます。昔は、それほど多くなく目立たなかつたもの

が、現在は、ほとんどの子どもたちの体の状態がおかしく、それもどんどんひどい状態になつてきてるといいます。また、大きい子だけではなく、月齢の小さい子にまで体のおかしさ、発達のゆがみが出始めているとのこと。

子どもたちの体がおかしいまま成長してしまうとさらに生活しづらい状態になり、できないことが増えてしまうという危機から、保育園ではさまざまな支援をしています。特に、「体を使うこと」「脳を刺激し、脳の発達を促すこと」ととらえ、0歳時期から子どもの発達に応じた動きを生活の中で最大限保障しています。

が動かない状態にあるということです。赤ちゃんは、あやされたり、話しかけたりといった働きかけをされることがとてもうれしい。だから赤ちゃんの「不快」を取り除き、「快」（心地いい）の状態を作つてやるようになります。子どもたちの体がおひさま飯塚保育園に一歩足を踏み入れると、なんと子どもたちがパンツ一枚で泥遊びをしていました。

このように、子どもたちの体の状態を改善していくために、保育士さんは、学習しながら保育内容を高めています。脳の働きについては、さくらんぼ保育の保母学校で、齊藤公

生活しやすい体を 作つていくために

0歳児の場合、手足をバタバタさせる行動があります。バタバタしない子はいい子と思いがちですが、それは体

北海道 第5回
別海町編

北の大地のビッグな食生活。 生活様式の激変で 高たんぱく食に

高校生の健診で若年層からの予防に取り組む



取材・文=西内義雄(フリーライター)

**標識は牛や鹿。
果てしなく続く牧草地**

北海道野付郡別海町。名前を聞いて地図上のどこにいるのか、すぐに示すことができるだろうか? お恥ずかしい話、僕は自信がなかった。そもそもどちらで詰めばいいのかも知らなかつた。*どちらも正解です

ひとつだけ知っていた町の名物は「べつかいの牛乳屋さん」。つまり、別海は乳製品で有名で、それが健康に何かららの影響を与えているのでは? と、勝手な解釈のまま飛んだ6月下旬の北海道。飛行機は釧路行きを選択した。別海なら根室半島中標津空港を利用するのが便利というが、1日1便しかなく、そのため便数の多い方を選んだのだ。それに釧路から別海までの100キロメートル以上を陸路で移動するほうが



**子どもが
肥満になる理由**
応対してくれたのは保健師の島澤み
りさん。最初に別海が直面している問題点について聞くと

「このあたりは牧場が多いからね」なるほど、だから道路標識に牛の絵が描かれているのか。日ごろ見慣れないものに出会った興奮を伝えたら、「牛は大丈夫。怖いのは鹿だよ。野生だからね、突然飛び出て来事故になるから気をつけなよ!」

そういうえば、牛の標識と同じくらい鹿の標識も立っている。少しスピードを落としたながら目的地に向かったのであつた。

別海町はとても広い。走っても走っても緑一色の牧草地が続く。人や車の数より乳牛の数のほうが絶対的に多い。だから「牛乳屋さん」が名物にならぬ。と頷きながら町の保健センターを訪ねた。

別海町はとても広い。走っても走っても緑一色の牧草地が続く。人や車の数より乳牛の数のほうが絶対的に多い。だから「牛乳屋さん」が名物にならぬ。と頷きながら町の保健センターを見ていた。あとで町の車両セ

ンターを見てください。広い町だから小学校送迎用のスクールバスが20台以上ズラリと並んでいるのですよ。歩

さらに詳しい説明は子ども担当の前道恵恵さん(保健師)がしてくれた。要約すると9年から17年までの間、児童はともかく小学生の肥満は少しづつ増える傾向にあり、とくに高年肥満(肥満度50%以上)の増加が認められた。どうしてこんなに子どもの肥満が多いのか? 広大な土地を持ち、子どもたちは都会より確実に運動しているだろうに……。

「どんでもない。あとで町の車両センターを見てください。広い町だから小学校送迎用のスクールバスが20台以上ズラリと並んでいるのですよ。歩